

第9回 県内技術研究発表会(平成26年10月31日)

1. 目的

県内技術研究発表会は、島根県及び市町村の所掌する建設技術に関する調査・研究・開発の成果発表及び建設技術に関する創意工夫の提案等を行うことにより、建設技術の向上と普及を図ることを目的として毎年開催しています。

2. 主催者

公益財団法人島根県建設技術センター

3. 共催者

島根県建設技術協会
島根県農村振興技術連盟
島根県治山林道研究会
松江市建設技術協会

4. 結果

下表のとおり

	論文題名	所属	氏名	
1	地理空間情報(GIS)を用いた被災状況の把握～通常業務からの備え～	浜田県土整備事務所	主任 石倉 英明	☆
2	携帯情報端末と無料通信アプリ(LINE)を利用した災害査定	河川課	企画員 森西 勝彦 主任 和泉 孝嗣	○
3	御幡川地すべりの復旧(社会的合意形成)	出雲県土整備事務所	企画員 山崎 隆司	☆
4	雲南県土整備事務所における1.5車線の改良整備の取組について(その1)	雲南県土整備事務所	企画幹 渡部 文明	
5	農業水利施設等を活用した小水力発電の取組みについて	農地整備課	技師 伊藤 宏	
6	浜田川総合開発事業における希少動物の保全について	浜田河川総合開発事務所	主任技師 澄田 高宏	
7	松江堀川連杭事業について	松江県土整備事務所	主任 石川 俊平	
8	和木波子海岸の侵食状況とその対策	西部農林振興センター	主任 蔵敷 秀則	
9	神門通りPR館設置効果について	出雲県土整備事務所	主任技師 小林由加里	○

○ … 優秀賞

☆ … 聴講賞

5. 発表会の様子



発表会の様子



表彰式の様子

平成26年度 県内技術研究発表会 日程表及び発表論文の概要

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 開会 | 9:30 |
| 2. 挨拶 | 9:30～ |
| 3. 発表会における留意事項等 | 9:40～ |
| 4. 研究発表会 | 9:45～ |

1 9:45～	<p>【地理空間情報(GIS)を用いた被災状況の把握～通常業務からの備え～】 / アカウンタビリティ 浜田県土整備事務所 土木工務部 土木工務第三課 主任 石倉英明</p> <p>GISという言葉を目にした業務で使用する機会も増えてきた中、平成25年度の災害を通じて、被災状況の位置を迅速に把握するために日頃からどう いう意識で訓練しておくか。その実例(案)を提案する。</p>
2 10:10～	<p>【携帯情報端末と無料通信アプリ(LINE)を利用した災害査定】 / 一般(緊急時の情報共有) 河川課 河川海岸整備グループ 企画員 森西勝彦、主任 和泉孝嗣</p> <p>平成25年7月豪雨に伴う災害査定においては、1人の現場説明者が複数箇所の災害査定を受けたため、査定官からの多くの修正事項を正確に情 報伝達することができず、査定設計書への反映漏れや設計書訂正に時間を要する点が課題となっていた。そのため、次回の災害査定において、現場 と事務所における情報伝達の手段として携帯情報端末と無料通信アプリ(LINE)を利用したところ、迅速かつ正確な情報伝達によりスムーズな査定決 定を受けることができた。 この手法を活用することにより、緊急時における現場と事務所間の情報伝達において、リアルタイムに正確な情報を大人数で共有することが可能と なる。</p>
3 10:35～	<p>【御幡川地すべりの復旧(社会的合意形成)】 / 一般(施工管理) 出雲県土整備事務所 農林工務部 治山・林道課 企画員 山崎隆司</p> <p>平成24年7月6日からの豪雨(最大日雨量132mm、最大時間雨量74mm)を誘因とし、末端幅200m、長さ130m、頭部滑落崖20mに及ぶ大規模地すべ り、出雲市佐田町大呂地内御幡で発生した。 この災害により地区の重要な生活道路が通行止めとなり、急勾配で狭小な迂回道路を通行せざるを得なくなり、長期にわたり市民生活に影響を及ぼ すこととなった。 当該地は、大規模復旧工事中の安全対策は本より、早期完工による生活道路開放が望まれる現場で、複数の施工者による安全対策協議会の設 立、施工者・発注者・設計者での工程フォローアップにより円滑に工事進捗を図り、地元住民が望む時期に道路開放を実現させた。</p>
11:00～	休憩: 10分
4 11:10～	<p>【雲南県土整備事務所における1.5車線の改良整備の取組について(その1)】 / 一般(道路計画) 雲南県土整備事務所 企画調整スタッフ 企画幹 渡部文明</p> <p>雲南県土管内では、道路整備方針図に基づく1.5車線の改良区間の整備率が低く、今後本格的に該当する区間の整備を進める必要がある。 1.5車線の整備に関しては県で「調査・設計マニュアル」が定められているが、若干具体性に欠けるため、担当する職員によって出来上がる道路の姿 は様々である。 このたび雲南県土では、今後進める1.5車線の改良において、より公平な整備を進めるため、雲南県土独自の設計ルールを策定した。 この取組について、2か年に亘る発表の機会を得ることを前提に、本年度は、この独自ルールの内容について発表する。 なお、現在1.5車線の整備区間の詳細設計を行っている区間があり、来年度「その2」として、定めたルールを適応するにあたり「地域の合意形成手法 のあり方」等について、検証結果を報告する。</p>
5 11:35～	<p>【農業水利施設等を活用した小水力発電の取組について】 / 一般(調査) 農地整備課 水利グループ 技師 伊藤宏</p> <p>東日本大震災に伴う福島原発事故以降、再生可能エネルギーの拡大が重要な課題となっている。 これに対し、平成24年7月から再生可能エネルギー源を用いて発電した電力を、国が定める固定価格で一定期間、電気事業者等に調達を義務付ける 「固定価格買取制度」が始まり、再生可能エネルギー導入の気運が高まってきている。 農地整備課では、再生可能エネルギーのうち小水力発電に注目し、県内の農業用排水路等を対象とした小水力発電の導入可能性について調査を 行った。今回、その概要を報告する。</p>
12:00～	昼食・休憩: 60分
6 13:00～	<p>【浜田川総合開発事業における希少動物の保全について】 / 一般(ダム事業環境調査) 浜田河川総合開発事務所 工務部 第二浜田ダム建設課 主任技師 澄田高宏</p> <p>浜田川総合開発事業においては、環境影響の評価を行い、事業により影響を受けると想定される希少動植物について、調査や環境保全措置を行 いながら工事を実施している。 本稿では、希少動物に関して、これまでの環境保全措置の実施状況及び今後の課題と対応案について報告する。</p>
7 13:25～	<p>【松江堀川連杭事業について】 / 一般(景観・施工) 松江県土整備事務所 土木工務部 土木工務第二課 主任 石川俊平</p> <p>松江堀川の石積護岸の侵食を防止する施設として整備された連杭については、施工から10年超経過し、老朽化が進み石積護岸への影響が懸念さ れている。 このことから腐食・破損の著しい箇所について、年次的に修繕工事を行うこととしているが、松江城周辺での施工であり、景観に配慮した工法の検討 や実施段階での課題等ある中で施工した、平成25年度工事の状況について発表する。</p>
8 13:50～	<p>【和木波子海岸の侵食状況とその対策】 / 一般(治山) 西部農林振興センター 総務企画部 調査計画スタッフ 主任 蔵敷秀則</p> <p>江津市の和木波子海岸において侵食が進み、放置しがたい状況となっているため、各事業を活用し対策を行っている。しかしながら、未対応の箇所 もあり、そのなかでも背後地を飛砂、潮風、波浪等の被害から守る「海岸防災林」への影響が懸念されるため、治山事業による対策を計画している。 また、江の川河口から国分久代海岸までの一連海岸においては、侵食のみならず堆積による問題も生じているため、土木部、農林水産部の関係各 課により、この問題の解決にむけて連携して対応している。</p>
9 14:15～	<p>【神門通りPR館設置効果について】 / アカウンタビリティ 出雲県土整備事務所 土木工務部 都市整備課 主任技師 小林由加里</p> <p>出雲大社前神門通り線の整備事業において目標とされている「住民との協働による道づくり」を達成するため、沿線の一角に神門通りPR館を設置し ている。発表では、神門通りPR館の施設概要や実施内容、また設置により得られた効果等について報告する。</p>
14:40～	休憩: 10分

- | | |
|--------------------|--------|
| 5. 意見交換/聴講賞投票/表彰選考 | 14:50～ |
| 6. 表彰及び講評 | 15:20～ |
| 7. 閉会 | 15:40 |